



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692(住所記入不要)
☎0276-88-5511(代表)
☎0276-47-5007(企画課直通)
☎0276-89-0136
http://www.town.ora.gunma.jp
✉koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL http://www.town.ora.gunma.jp/k



〈第五十八回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



地蔵様は狸塚(十三軒・27区)と篠塚(水立大黒・23区)の境にある社の中に納められ、県道沿いの道路脇に今もなお残っています

十三軒の地蔵様

200年ほど前、十三軒辺り一帯に流行病が大発生して、子どもや老人が次々に倒れました。
十三軒、焼立(やけど)の人たちは寄り合って、相談し、仏様におすがりして疫病を防ぐと、篠塚村境に地蔵様を建てて村中無病息災をお願いすることにしました。

こうして安永9年(1780)8月、狸塚村焼立十三間講中(信仰者)によって地蔵様が建立されました。

それからは疫病も災難もなくなり、地蔵様には焼立・十三間の記銘がありますが、この十三間は当時、名主の家には十三間あったのでこれを取って、焼立十三間としたといわれます。

それから歳月は流れて人家も十三軒に増えました。その頃から、土地の呼び名を十三軒・焼立と呼ぶようになったといえます。村人は地蔵様に感謝し、現在は毎年4月24日、7月24日、10月24日に地蔵祭りを続けています。

昔は、祭りの日には耕地中が沸き、前と後ろ二人がかりで棒につるした太鼓を担ぎ、みんなが、これを叩いて村中を回って無病息災・村中安泰を盛大に祈願しました。今もなお土地の人々に信仰されています。

根本山神

昔、中野村の裏宿一帯は広い広い森林で、人は住んでいませんでした。なんでもここへ人が移り住んだのは北条時代の文永2年(1265)ころだといわれます。その頃、現在の千原田に住んでいた人たちの幾人かが開墾して、移住し新屋敷を作り始めたといえます。

開墾は大変で、毎日が苦勞の連続でした。時には切り倒した樹木の下敷きになって大けがをしたり、疫病が流行して次々大病を患う人がいたりして、悪魔のたたりではないかと恐れられました。

そのころ、どこからともなく一人の修験者が来ました。人々はわらにもするが思いで厄払いの祈禱(きとう)をお願いしました。修験者はこの様子を見て同情し、この災難を払うために昼夜を分かたず、一心不乱に祈禱を続けました。

すると、寝ていた病人たちも快方に向かい、新しい病人は出なくなり、疫病は収まりました。それからは平穩に過ごすことができたそうです。

それから当時の人たちは、修験者が山岳信仰に根ざした根本山神の先達だったことをつきとめ、栃木県と群馬県の境にある根本山神社の分霊を請け迎え、新屋敷に祭って守護神としたそうです。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



おうらの空から
(役場周辺)



Photo 広報担当者④

ひとりごと From editors

▶新年度がスタート。お馴染み(?)、3人の〇澤〇樹は本年度も変わらずトライアングルスリー。団結して頑張るぞ! ▶年が変わると同じように、年度が変わることは一つの節目。気持ちを切り替え「よし、やるぞ!」と。充実した毎日を送るためには、節目を作ることが大切だと実感しています。▶ところで、気付いている人も、ちらほらいらっしゃるようですが、広報おうらは9月号で通算600号を迎えます。私はこの4月号を編集し始めたころに気付きました。気付いた途端、頭の中でカウントダウンが始まって、止めようにも止められません(苦笑) ▶そんなわけで、広報おうらも一つの節目を迎えます。引き続き、皆さんと一緒に作っていきたくです。ちなみに私が6月に迎える節目の数字「35」。さて、何でしょう。(深澤)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。